

パンデミックの真ただ中で思うこと

北区・上町支部
(たにもと耳鼻咽喉科・外科クリニック) 相良 有一

1. はじめに

2020年5月25日コロナウイルスに関する緊急事態宣言が北海道、東京都を含め全面解除された。この1カ月半緊急事態宣言発令中は全国一斉に学校は休校、不要不急の外出は自粛、街の人出は7～8割に抑えられ、飲食店をはじめデパートなども臨時休業という経済活動もほぼすべてストップした状態であった。また、コロナウイルスの終息が完全には見通せぬまま、段階的に社会、経済活動を復活させようという動きがみられる。

今回のコロナ騒ぎについて一市民の立場で感じたことを述べてみたい。

2. 武漢市での奇妙な肺炎

武漢市の眼科医李文竜氏(34歳)は2019年12月30日SARSに似た奇妙な肺炎に気付きSNSで発信した。すると当局に世論を惑わすところがめられた由。本人も2020年2月7日コロナウイルス肺炎にかかり、命をおとしている。目からもコロナウイルスは感染し複数の眼科医が感染しているという。

早い時期に気付き、警告を発したにもかかわらず取り上げられるどころか世論を惑わすと弾圧を受け、初期対応を誤ったことは悔やまれる。

3. パンデミック

パンデミックとは病気の世界的な流行である。前世紀にはインフルエンザパンデミックは数回発生しており何百万人もの人被害を受けている。前回のインフルエンザパンデミックは2009～2010年に発生し、専門家はパンデミックの再発生は避けられないと述べている。パンデミックの発生と経過

ヒトインフルエンザのパンデミックは次の

ような特性を持つ新しいウイルスの出現によって発生する。

ヒトが免疫を持っていないかまたはあまり免疫がない。

ウイルスが深刻な疾病や死をひき起こす可能性がある。

ウイルスがヒトからヒトに感染する。

20世紀には3回パンデミックが起きている。

1968年 香港インフルエンザ

100万人死亡

1951年 アジアインフルエンザ

200万人死亡

1918年 スペインインフルエンザ

4,000～5,000万人死亡

判明している事実

インフルエンザパンデミックは波状に広がる。流行の波は数週間から数カ月にはわたって続く可能性がある。隔離やその他の公衆衛生対策によって感染速度をおさえることが可能かもしれないが、世界的な広がりを阻止できる可能性はあまりない。パンデミックの最初の数カ月はワクチンがなく、新しいパンデミックウイルスに対して効果を持つ抗ウイルス剤があるかどうかもわからない。

従業員本人の発症、あるいは発症した病人の看病をするための欠勤により事業が多額の影響を受ける可能性がある。学校が一時閉鎖されたり、大規模な集会が中止されるほか管轄区によっては公衆衛生当局により渡航制限処置がとられることもある。いわゆるLock downである。

4. WHOの対応

2020年1月24日時点でWHOはパンデミックを宣言するには時期尚早と表明。すでに世界

中にコロナウイルスは拡がっていたが、中国国外での感染例が依然として限定的で少ない。武漢市を事実上封鎖するなど中国当局の対応など、意見は二分していると述べている。テドロス事務局長は「中国国内では間違いなく緊急事態だ」と。WHOの宣言を出す状態ではないが「WHOが事態を深刻にとらえてはいないと解釈してはならない」とくぎを刺している。この2日後（3月11日）パンデミックと認めている。

5. 各国のコロナウイルス感染者と死亡者

はじめ武漢市でコロナウイルス感染爆発が起こり、武漢市滞在日本人を避難させるべく4便の救援機を飛ばした。その後武漢市はLock downされた。その前にヨーロッパ方面にウイルスは運ばれたのか、イタリアを中心にフランス、ドイツ、イギリスで感染者が続出、特にイタリアは医療崩壊が起こり多数の死亡者を出している。この表（表1）は5月27日現在の世界の感染者と死亡者の数をあらわしている。世界で最も多くの感染者をだしているのはアメリカで、特にニューヨークは集中して発生している。最近ではブラジル、インドが流行の中心になっている。

表1 新型コロナウイルス感染者が多い国・地域

米 国	166万2,302人（ 9万8,220人）
ブラジル	37万4,898人（ 2万3,473人）
ロ シ ア	36万2,342人（ 3,807人）
英 国	25万9,559人（ 3万6,793人）
スペイン	23万5,400人（ 2万6,843人）
イタリア	23万0,158人（ 3万2,877人）
ド イ ツ	17万8,864人（ 8,308人）
ト ル コ	15万7,814人（ 4,369人）
イ ン ド	14万5,380人（ 4,167人）
フランス	14万5,279人（ 2万8,432人）
世界全体	551万2,055人（34万6,612人）

5月26日現在、（ ）内は死者数。
各国や米ジョンズ・ホプキンス大の集計による。

この世界のデータは米国ジョンズ ホプキンス大学の集計のもので、1日20億件閲覧されているという。このパンデミックをリアルタイムで追跡する国際的な公衆衛生のインフラがないとジョンズ ホプキンス大のローレンス ガードナー准教授が思い立ち、中国からの大学院生薫恩盛さんと半日でシステムを作り上げたという。現在はガードナー氏ら20人以上で運営されているという。データはWHO、アメリカ疾病対策センター、各国保健当局や関連サイトのもとに15分毎に更新されているという。

5月26日現在世界全体で5,512,055人の感染者で死亡者は346,612人という。

ちなみに日本は5月27日PM9：30現在2隻のクルーズ船での発生を含めて17,369人、死亡者883人である。

テドロス事務局長は「世界は新たな危険な局面に入っている」と警戒を呼びかけている。日本時間6月20日現在、世界全体の感染者は867万人、死者は46万人という。

6. 1～2月頃の日本の対応

2020年1月24日国立感染症研究所発表

新型コロナウイルスに関連した肺炎患者の発生について2例目を報告

国民の皆様へ

迅速で正しい情報提供に努めます。

過剰に心配することなくマスクの着用や、手洗いの徹底など通常の感染対策に努めてください。

2月12日県医師会での伝達講習を要約すると下記の通りである。

インフルエンザ対策に準じて、ただし、地域、施設の状況に応じた対応が求められる。

新型コロナウイルスの遺伝子変異はおきてない。

中国における死亡者数増加に関して引き続き検討が行われている。

免疫不全宿主、高齢者を守る対策が必要に

なる。肺炎合併、重症化には十分注意。
感染対策の基本は標準予防策、飛沫、接触の予防である。

特別な治療法はない。二次性の細菌性肺炎の合併に注意しなければならない。

新型コロナウイルスに関しては分からないことばかりで、当時としては上記の事柄があげられていた。

その後次第にわかってきたことを下記に列記する。

2度、3度感染する人がいる。1度の感染で抗体が十分できないのか。

感染力がすさまじい。三密（密閉、密集、密接）をさける。

silent pneumoniaがある。自覚症状がなくても肺に陰影がある人が多い。

重症化の機序がわかってきた。免疫の暴走（正常な細胞までキズ付け、多臓器不全をひきおこす）。

有名人の志村けんさん、岡江久美子さん、三段目力士の勝武士など本当に国民をびっくり仰天させ、全国民の行動変容をうながした。ご冥福おいのりします。

7. コロナウイルス感染者疑いの2例

コロナウイルス感染症の疑わしい症例が2例あった。一例目は、3月はじめ某診療所にお勤めの看護師の方が、熱が下がらないと来院された。帰国者でもなく、濃厚接触者でもなかったが、仕事柄知らない間に感染しているのではないかと「帰国者・接触者相談センター」へ相談した、基準に当てはまらないと受診も断わられた。2例目は4月のはじめ某駐車場の整理をしている方で、たくさんの旅行者と接触があり、2月に北九州のコンサートに参加。その後疲れやすく、微熱があると受診された。この例も基準に合わない受診さえも受け入れてもらえなかった。

鹿児島県が感染者0というのはPCRの検査が著しく少なく、見つかっていないだけでは

ないかと疑問に思った。周りには感染者がいないものと思って、仕事している。

2波に備えて、PCR検査をだれでも受けられる態勢を作ってほしい。

8. 緊急事態宣言

2020年4月7日安倍首相は全国一斉に緊急事態宣言を発令。県境をまたいでの移動は自粛を要請、集会等は禁止、全国規模の学会や講演会はすべて中止。オリンピックは1年延期、プロ野球もJリーグも公式戦がまだ始まらない。大相撲も5月場所は中止。高校総体も中止、甲子園の全国高校野球も中止になった。

5月中旬の鹿児島マシヤール会（IJPC医療班への鹿児島大学からの出張者の集まり）は延期、10月の一石会（一中、鶴丸卒医師の会）は中止になった。

10月から予定されている鹿児島国体も開催が危ぶまれている。あらゆる社会、経済活動がバラバラになり、政府も100年に1度の経済対策と31兆円もの2次補正予算を組み対応に大わらわである。

9. 緊急事態宣言解除

5月19日一足早く39県は解除されたが5月25日東京都、北海道を含めて全国的に緊急事態宣言解除がおこなわれた。まだコロナウイルスは終息したわけではないがこのままだと経済活動は疲弊し世の中が回らなくなるということで、もし2波3波が来るようであれば、東京の場合東京アラートを発令するとプランをたてている。

2～3日前から北九州市で第2波らしい感染増がみられ、東京でも病院でのクラスターが発生、気が抜けない状態だ。

緊急事態宣言解除の首相記者会見で「日本国民は罰則もない自粛要請で、一致協力してわずか1カ月半でコロナウイルスに対応できた。感謝に堪えない」と述べていた。

ノーベル医学賞を受賞された山中伸弥教授

も日本国民の民度の高さは世界に誇れるものだ」と称賛しておられる。山中教授は最近時々NHKで「私は専門家ではないが」と前置きして新型コロナウイルス感染症について見解を述べておられる。

コロナウイルスとは共生を目指すべきだ。
報告されている感染者数はごく一部だ。
PCR検査を受けていない感染者はもっとたくさんいる。
PCR検査をもっと増やすべきだ。
発症していない感染者は沢山いる。
など発言がみられる。

10. アメリカと中国との鏖迫り合い

コロナウイルスの感染がやや下火になってきたらアメリカのトランプ大統領と中国の習近平国家主席の間で今回のパンデミックの責任のなすり合いが始まった。

目に見えない人類の敵コロナウイルスに協力して立ち向かうべきなのに「アメリカファースト」と声高に、今回のパンデミックは中国のミスだと言えば、中国はアメリカに責任があると宣伝合戦。何も成果は生まれない。

また5月28日中国は全人代（全国人民代表大会）で、香港での反体制的言動を取り締まる「国家安全法制」の導入を決定。香港の議会の頭越しに治安に介入、一国二制度は風前の灯状態だ。

これも中国共産党の幹部が現在の世界情勢を、コロナウイルスで各国とも手一杯であるからこの時期、少々手荒な方法で一国一制度へ移行しても大した批判はされないだろうと判断したのではあるまいか。コロナウイルス騒ぎを戦争に見立て世論の矛先をコロナに向け、香港の抗議から目を背けさせたいと考えたと思ってもさほどの外れとも考えられない。過去にも似たような例は歴史上ある。

11. ワクチンの完成がまたれる

いま世界中でワクチンを競争して製造して

いる。早いところでは7～8月頃には使用できるようになるのではないかと報道されている。日本ではまだ1年位先だろうとの見通しだ。

アメリカでは血清療法が臨床でつかいはじめられたと報道があった。日本ではインフルエンザの治療薬アピガンを前倒し承認臨床で使えるようになるらしい。今まで全く治療方法のなかった新型コロナの対処方法が出来つつある。ワクチンが完成し、誰でも使えるようになれば、通常のインフルエンザと同様に、新型コロナウイルスと共生することも可能になるであろう。

12. NHKスペシャル パンデミックの中での人間の絆

5月31日NHKスペシャルを見ていて、今回のパンデミックに世界のいたるところで人間のすばらしさを示している映像が放映されて感動した。世界で最も感染者の多いアメリカの中でもとりわけ多いニューヨーク州で感染爆発が起こり、医療崩壊になった時、クオモ州知事の呼びかけで、1万人もの医療従事者が自分の感染の危険も顧みず駆け付け多くの人々を救ったという。またイタリアではオペラ歌手が自宅のベランダからみんなを励まそうと得意の声量で歌っていたが状況が悪化、声が出なくなって中断。しかし、そのあと再び街の中で大きな声量で周りの人々を勇気づけていた。その映像がテレビを通じて世界中の人々とどけられた。

パンデミックの状況ではどこの国であっても人々の団結があってこそ、この難局にうち勝てるのだと結んでいた。

13. おわりに

取り留めのないことをながながと書いてきたが、要するに目に見えない強力な敵コロナウイルスに勝つには人類が一致団結して立ち向かわねば打ち勝つことはできないということであろう。